

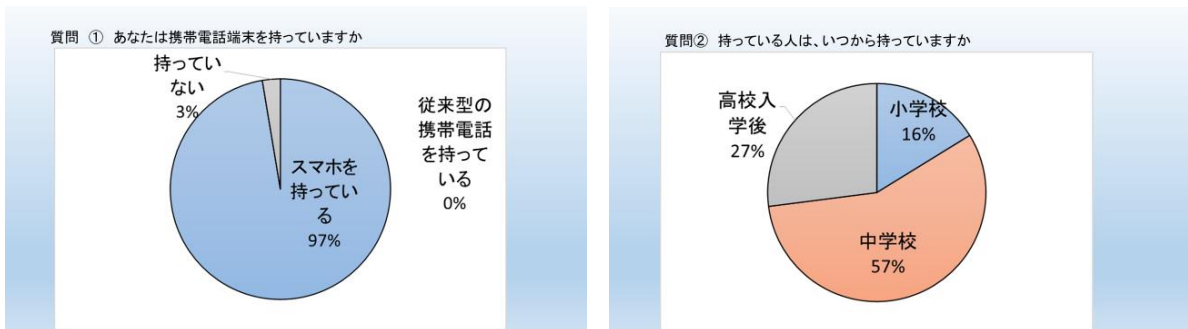
1 はじめに

本校は、各学年普通科2クラス、工業科として機械建築工学科と電気電子科がそれぞれ1クラスの中規模校である。情報に関しては、自分一人が「社会と情報」2単位を普通科2クラスで担当している。2年前に本校に転勤し、8年ぶりに情報を受け持つということで試行錯誤を繰り返してきたが、振り返ってみるとどうしても情報モラルに関する指導が手薄だったと反省した。そこで、メールのやりとりから起こるトラブルを例にマナーについて考える授業を実施してみた。

2 授業の展開

(1) スマートフォン等の携帯端末等に関するアンケートの実施

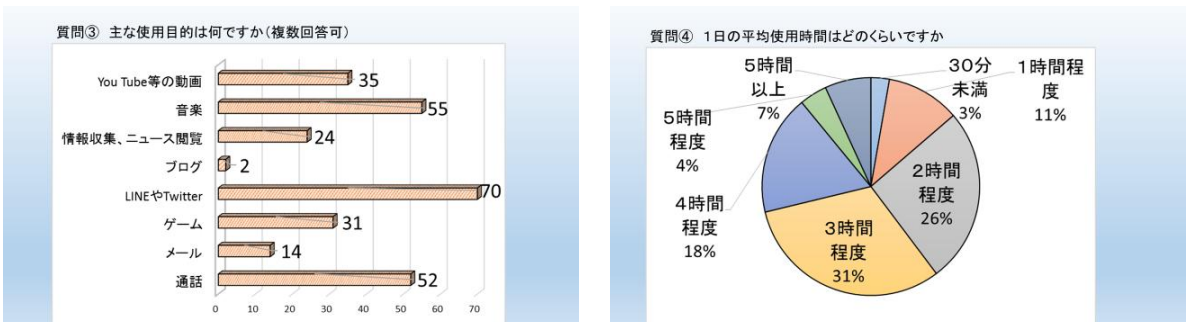
普通科1年生全員を対象に事前アンケートを実施して、結果をスライドで紹介し問題点を考えさせた。



本校生徒はスマートフォン所有率97%で、所持した時期は中学校57%、小学校16%であった。

○生徒の感想

「小学生から持ってる人がいてびっくりした」「思ったよりスマホを持っている人が多くてびっくりした」「持っていない人もいるんだなあとと思った」

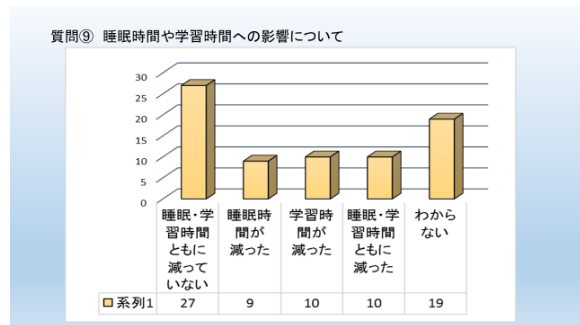
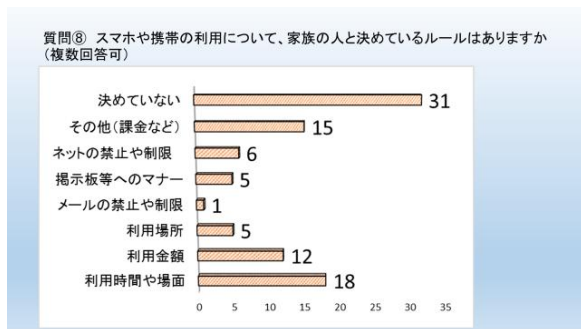


主な使用目的はLINEやTwitterが予想通り多かった。1日の平均使用時間は3時間以上が60%にも及ぶ結果となった。更に5時間以上は7%もいた。

○生徒の感想

「みんな安全に使っていると思ったが使いすぎかなと感じた」

「5時間以上スマホをいじっている人はやばいと思った」



使用する際に決めているルール等については、31名の生徒は特に決めていない。また、30名ほどの生徒が、学習時間や睡眠時間が減少したと答えた。

○生徒の感想

「ルールを決めていない人が多かったのでルールはあるほうが良いと思った」

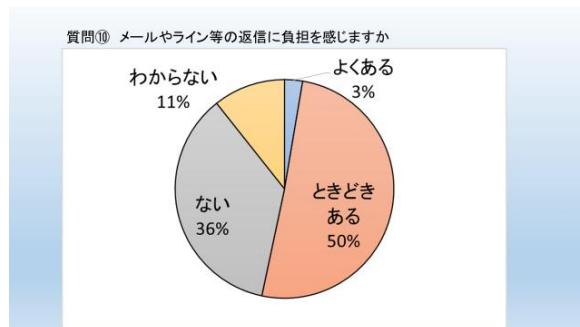
「勉強時間や睡眠時間が削られるのは良くないと思う」

質問⑩ これまでに携帯電話等に関するトラブルにあったことはありますか

ア ある	5
イ ない	70

質問⑪ 質問⑩であると答えた人はどのようなトラブルに会いましたか(複数回答可)

ア 掲示板やメール等で悪口を書かれた	0
イ チェーンメールを送られた	3
ウ 個人情報や写真を無断でネットに流された	0
エ 心当たりのない利用請求を受けた	0
オ 迷惑メールがたびたび送られてきた	3
カ 他人からしつこくメール等を送られた	1
キ スマホ等のカメラで撮影されて嫌な思いをした	1
ク LINE等で知り合った人と実際に会い、危険な目にあいそうになった	0
ケ LINE等で仲間外れにされた	0
コ その他	1



この後の展開につながる重要な質問「これまでにトラブルにあったことはありますか」について、「ある」と答えた生徒は予想をはずれた5名であった。あとで分かったことであるが、チェーンメールや迷惑メールは現実に多くの生徒が受け取っていた。これらはトラブルのうちには属しないと捉えていたらしく、トラブルにあったことはないと答えたようである。

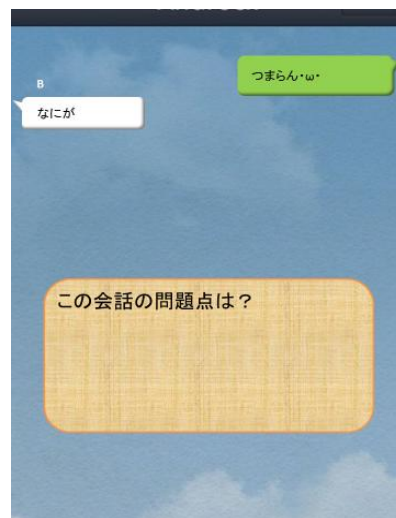
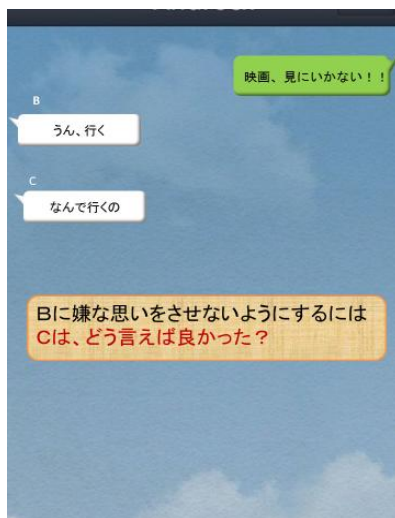
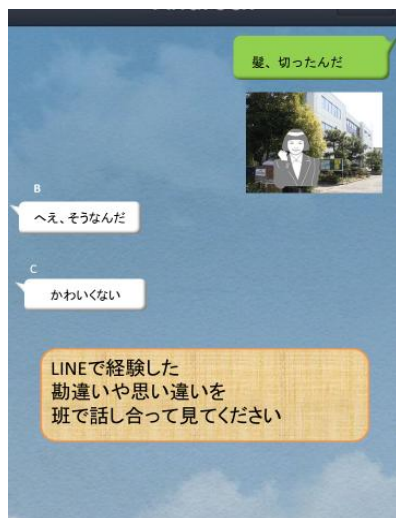
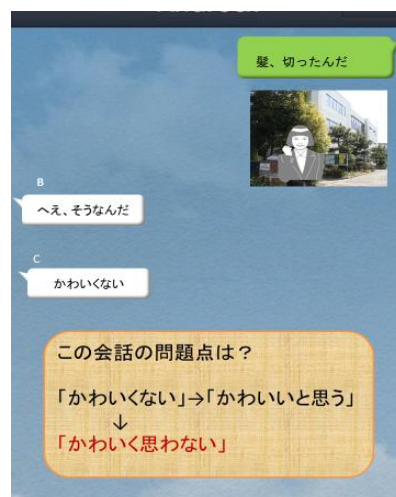
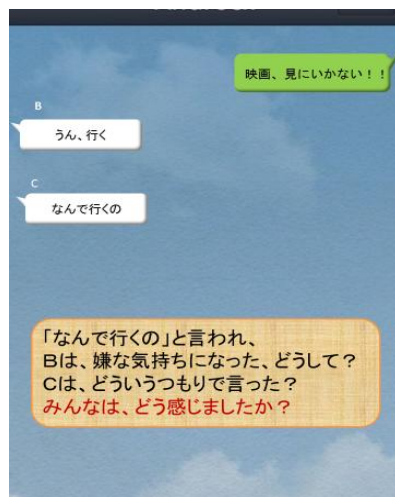
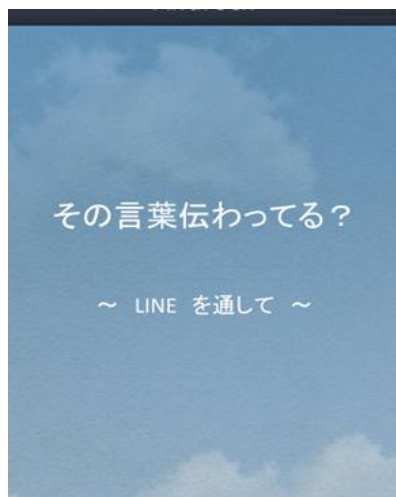
一方「メールやライン等の返信に負担を感じますか」については「よくある」「ときどきある」を合わせると53%となり、展開していく上では助かった。

このアンケート結果の感想「多くの人がLINEを使っている」「ルールを決めるのは大事だと思う」「便利な面も多いが欠点も知るべき」「自分を見直してみようと思った」「ほとんどの人が持っているから、これからもっとトラブルが増えそう」などの意見を紹介し、次の展開へつなげた。

(2) 具体的な事例から学ぶ

SNSの中から大半の生徒が利用しているLINEを取り上げ、やりとりの中でのあいまい表現からのトラブルについて考えさせた。

普段から使い慣れている画面のためか、興味深くモニターを見つめ、全員が集中して参加できていた。やはり身近な教材を利用するのは効果的である。



○事例1 A「映画、見にいかない!!」 B「うん、行く」 C「なんで行くの」
問 「なんで行くの」と言われBはいやな気持ちになった。どうして?

生徒の回答

- 「自分の意見を否定されたと思った」
- 「自分が行ったらいけないのかと思ったから」
- 「交通手段として聞かれたとは思わなかったから」
- 「いやな気持ちになった意味がわからない」

○事例2 A「髪、切ったんだ」 B「へえ、そうなんだ」 C「かわいくない」
問 この会話の問題点は?

生徒の回答

- 「かわいいとは思わないととられる」
- 「語尾に?をつけていない」
- 「言い方。普通にかわいいねと言えばよいと思う」

○感じたこと

- 「少し言葉をまちがえるだけで相手を不快にさせてしまう」
- 「人によって言葉の捉え方がちがうなと思った」
- 「文字だと微かなニュアンスを伝えるのが難しいなと思った」

問 事例1でBに嫌な思いをさせないようにするにはCは、どう言えば良かった？

生徒の回答

「どうやって行くの？」

「何の交通手段で行くの？」

「車とか自転車の絵文字をつければよかった」

○事例3 A「つまらん・ω・」 B「なにが」

問 この会話の問題点は？

生徒の回答

「文字だけでは怒っているのか質問しているのかわからない」

「記号がないから感情がわからない」

「どうでもいいことでLINEしすぎ」

(3) メラビアン の 法 則

メラビアンの法則を示し、文字だけでは発信する側の本当の真意は伝わりにくいことを実感させ、今後の参考とさせる。

メラビアンの法則

好意・反感等
態度や感情のコミュニケーション

メッセージの送り手が
どちらとも取れるメッセージを送った

メッセージの受け手が声の調子や
身体言語といったものを重視する

笑いながら叱る

こら、廊下を走ってはいけません

浮かない顔で褒める

元気なあいさつ
気持ちの良い朝だね



メラビアンの法則 LINE では

■ 視覚情報	55%	(スタンプ、絵文字)
■ 聴覚情報	38%	(音声メッセージ)
■ 言語情報	7%	(言葉そのものの意味)

なにが

表情や口調と伝えたい気持ちが同じになるように

元気なあいさつ
気持ちの良い朝だね

ただし注意すべき点として、この法則は絶対に「見た目や表情が一番重要」、「内容よりも声の大きさや口調などの話すテクニックが重要」と言い切るものではなく、メッセージの送り手がどちらとも取れるメッセージを送った場合、受け手は視覚や聴覚情報といったものを重視する傾向が強いと言っているだけであると念を押した。

4 まとめ

大半が画面と向き合っただけの授業になってしまったが、授業終了後の生徒達の感想には「文字だけではなかなか伝わらないことがよくわかった」「文字だけでなく絵文字やスタンプをつけて心情を表す」「送る前にもう一度確認することが大切」「相手を傷つけないようにしないとイケない」「大切なことは直接会って話すのが一番いいと思った」「相手のことを考えて言葉を選びたい」「自分がされていやなことはしないことと改めて思った」等があり、今回伝えなかったことがほぼ伝わったと実感することができた。今後も教材を工夫し、伝わる授業を目指したい。